

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	04-03-01-02
事務事業名	観光団体等支援事業		
事業開始年度	S46~		
大項目	もてなしの心とたくましさのあるまちづくり	問合せ先	担当課(室) 商工観光課
中項目	個性あふれる観光のまちづくり	職・氏名	観光係長 山台 智子
小項目	施策 観光	電話	64-1832(274)

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	観光関連団体
目的(何のために)	観光案内サービス、観光PR活動の推進に取り組む団体等に、補助金を交付することにより団体の目的達成のため支援する。また、観光施策の推進のためには民間協力が不可欠である。
行政活動(どのような方法で)	備前市観光協会、日生町観光協会、吉永観光協会への補助(観光ボランティア育成事業、観光マップ作成事業、イベント開催事業など)、和意谷史跡保存会、八塔寺ふるさと村運営協議会助成
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	観光団体等の会員の増加

事業の実績					
活動実績	実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	補助団体数	団体	3	5	5
	会員数	人	426	413	399
	補助金額	千円	7,864	7,532	5,193
	直接事業費		7,864	7,532	5,180
	人件費	千円	4,051	3,377	529
	事業費計		11,915	10,909	5,709
	国県支出金				
	受益者負担	千円			
	一般財源		11,915	10,909	5,709
必要人員	人	0.48	0.37	0.07	
結果指標	結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	会員数/人口	説明			
	結果指標量	%	1.02%	1.01%	1.00%
	対前年比	%	-	99.80%	98.20%
	活動コスト	円	11,915,000	10,909,000	5,709,000
単位当たりコスト	円	27,969	26,414	14,308	

事業の成果			
成果指標名	観光協会等会員の人口比	式又は説明	「観光協会等の活動が、会員の増加に繋がり観光振興に結びついているのか?」判断材料として人口比率を用いる。
成果指標量	17年度 1.02%	18年度 1.01%	19年度 1.00%
対前年比	-	99.80%	0.00%
到達目標値	1.10%	到達目標年度	平成22年度

事業の目的、対象、内容を考えてから目的達成性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
目的	<input type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	妥当性評価<A-E>	C
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である	課題認識	
対象	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	観光協会等は、観光振興を推進していく上で欠くことのできない団体である。観光協会は、合併前の各市町単位で存続しており、地域性や活動内容に格差がある。各種団体が合併をしてきている中において、観光窓口が一本化することは望ましいが、まだまだ時間を要すると思われる。が、利用者の利便性を考える上でも検討しなければならない課題である。	
	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある		
行政活動	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない		
	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない		
市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である		
	<input type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である		
市の関与	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい		
	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である	効率性評価<A-E>	C
コスト	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい	課題認識	
	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	観光協会3団体に対して補助を行っていることは非効率的であるが、各団体において自主的な活動を行っており、観光PRにおいても独自性を発揮しているため、今後においては検討すべき課題でもある。事業費、人件費ともに減少している。	
効率性の評価	<input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを削減することは困難		
	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある		
職	<input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が妥当でない		
	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善している		
目的達成度	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている	有効性評価<A-E>	C
有効性の評価	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	観光協会等は、観光振興を推進していく上で必要な団体であるため、補助を行うことは有効性がある。今後の課題としては、整理統合を含め検討する必要がある。	
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである		
	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである		
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある		
	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している		
<input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している			
<input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している			
<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている			

平成20年度の状況		説明	観光協会の統合は今後の課題であるが、各協会の個性を活かし、総合的な連盟組織にすることも検討している。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量 1.02%	結果指標量	1.10%

総合評価		評価区分<A-E>	C
観光協会の統合についての問題点は、地域性と独自性を活かす一つ一つのものにまとめることの困難さにある。知名度を低下することにもなりかねないことから、慎重に検討すべきである。			

平成21年度以降の方向性		説明	平成20年度で廃止・完了
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する		
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する		

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	活動内容が、観光の発展につながるかどうかの検証が必要である。	随時	効率的な財政支出
有効性	観光協会を将来的に一本化する。	将来	観光窓口の一本化、効率的な運営

